

Title	考現地理學の三四の研究
Author(s)	森, 重夫
Citation	地球 (1934), 21(6): 440-452
Issue Date	1934-06-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/184303">http://hdl.handle.net/2433/184303</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

る著しい不等運動が行はれ、南部には一般的に可成の隆起を行ひたるも、北部秀姑巒溪以北にては地溝内の沈降運動と共に山脈地壘は沈下し特に北端部に於て其程度が大であつた。(海岸上位段丘の時代)

其後最近の海岸全般の運動(所謂隆起珊瑚礁)は平均二十米内外の陸地上昇に據り、海岸に於ける低位段丘を作り尙地溝内に於ける舊段丘の下部段丘を作ると共に既に完成されたる各河流

の大デルタにも回春作用を行はしめつゝあるのである。

本文記述中地學雜誌一月號に丹理學士の新竹・竹東臺地の地形記事を読んだが該地域に於ける臺地礫層後にB・Cの二段丘を觀察されたのを知つたが東海岸山脈附近に於ける上記の状態は同氏の考察に大體一致する如く思はれ、臺灣島の東西に於て略同様な運動が最近行はれつゝある事を知つたのである。(昭和九年一月十三日稿)

## 考現地理學の三四の研究

森 重 夫

### 一 考現地理學に就いて

冒頭に際して筆者は不肖を省みず茲に考現地理學 Modern-geography の語を試みに提起す

る。この語たるや敢て適切なりとは愚考だもせぬ所であり、適當の語あれば之が改名を希ふ程のものではあるが、最近漸く盛になりつつある

考現學(又は考今學) Modernology と相關連す  
所多く且つ考現學的方法を以て研究せんとする  
地理學との意味に於て先づ斯の語を冠したるも  
のである。

擬て茲に考現學について一言を加へる。考現  
學とは現代の風俗、社會の狀態その他を自然科  
學的に視やうとするもので、拾集と調査と考察  
の三階梯の方法により之らを統計學的數理的に  
研究しやうとするものである。この學は先に明  
治の中年、かの有名なる人類學者坪井正五郎博  
士により風俗測定の名稱を以て提唱せられ、最  
近早稻田大學教授今和次郎氏により考現學と名  
づけられたるものである。詳しくは今和次郎・吉  
田謙吉兩氏の共著「モデルノロデオ (Moderno-  
logio)」について見られ度くこゝには簡單な説明  
一言を加へるに止める。

考現地理學に關しては既に佐々木彦一郎氏の  
地理學評論第九卷第九號に「東京の都心調査」と  
題した發表がある。氏は考現地理學又は類似の

語を冠しては居らぬが今迄の研究とは明に異なる  
もので、考現地理學の第一聲であり斯學研究の  
發頭をなす一文である。猶ほ前記「モデルノロ  
デオ」中にも數ヶ所考現地理學に關する部分が  
記されてある。

今筆者は前述のみに止めて以外の空論を欲せ  
ぬ。直ちに以下に於て最近の研究二三を擧げて  
以つて考現地理學の意味の實際的説明とはした  
い。

## 二 香川縣下各地の交通量

本項以下交通に關する部分のデータは大部分  
之を香川縣土木課の好意により得られたもので  
茲に謝意を表する。次に掲げる表(第一表)は内  
務省に於て全國的に調査統計し以て國道線及び  
指定府縣道線の補裝とか幅員の決定に對する研  
究資料となせるものの中、香川縣下に於ける指  
定地點九十三ヶ所中の一部分を、而も簡約統括  
して示したものである。第一表中に念の爲に添  
へたる換算重量は路面構造の決定に對する、又

# 第一表

## 香川縣道路交通調查成績表

太字ハ春季一昭和八年六月一、二、三、日三日間平均一日表  
細字ハ秋季一昭和八年十月十八、廿三、廿四、日三日間平均一日表  
各日午前六時ヨリ午後八時ニ到ル十四時間内

路線名 (及區間)	觀測個所	步行者	牛馬	自轉車 自働車	牛馬車 荷車 人力車	自動車 貨物車 自動車	換算 重量	占用值
國道二十 二號線	高松市壽町	4146	1	3795	236	388	569	5329
		4279	1	4782	277	572	785	6284
	高松市築地町	4377	6	3921	472	245	578	8518
		3206	4	3767	494	176	486	6541
	木田郡古高松村新 田	505	1	2367	129	179	338	2312
		861	8	2106	114	127	251	2217
	木田郡牟禮村牟禮	1067	7	1325	76	101	200	1739
		1091	7	1612	87	87	181	1904
	大川郡志度町志度	3275	6	2349	269	174	342	4498
		4408	15	3018	202	257	462	5129
	大川郡津田	3410	1	1046	62	61	115	2607
		3217	5	1209	71	63	123	2654
	大川郡丹生村馬篠	428	2	357	11	15	27	450
		473	2	409	24	39	64	630
國道二十 三號線	高松市西濱町	2842	4	3227	242	109	293	4458
		2128	7	2935	266	127	347	4263
	高松市西濱新町	1766	11	3357	531	187	539	6127
		1947	22	3950	589	226	659	7009
	香川郡上笠居村衣掛	159	2	732	44	82	155	808
	綾歌郡端岡村新居	97	8	729	34	52	143	707
	綾歌郡府中村綾坂	1442	8	1377	97	143	289	2156
		1379	12	1329	70	169	353	1977
	綾歌郡坂出町中通	6717	1	4022	256	137	249	6605
		6103	5	4167	263	99	244	6323
	綾歌郡宇多津町田 尾坂	1242	1	1914	127	67	170	2315
		1166	3	1809	113	74	166	2148
	丸龜市通町	8418	12	5331	562	501	504	10125
		7026	14	4802	600	216	553	9467
	仲多度郡善通寺町	218	27	524	65	127	234	1069
	上吉田務主	126	2	611	52	115	217	857
	仲多度郡琴平町川 西	5178	5	1580	137	195	348	4373
國道二十 四號線		4604	3	1345	98	227	360	3720
	仲多度郡十郷村追 上	312	16	271	43	51	103	691
		324	4	297	24	29	58	498
	仲多度郡龍川村金 藏寺本村	651	11	771	38	22	55	949
		885	2	935	55	38	86	1206
	三豐郡大見村鳥坂	435	13	736	28	87	153	881
		375	3	882	29	86	145	863
	三豐郡笠田村笠岡	459	8	828	112	71	165	1474
		788	6	1201	75	74	154	1504
	三豐郡豐濱町和田 濱	1639	6	1832	178	107	257	2927
		1735	10	2027	181	118	277	3053

地

球

第二十一卷

第六號

四三

四四

路線名 (及區間)	觀測個所	歩行者	牛馬	自轉車 自動自 轉車	牛馬車 荷人力車	自動車 貨物自動車	換算 重量	占用値
縣道高松 琴平線	高松市南新町	7702	0	7477	301	103	284	8672
		6893	0	7194	331	147	333	8387
	高松市藤塚町	3751	1	5629	378	352	748	7030
		3080	0	4569	268	333	661	5553
	香川郡國座村横内	1612	6	2707	158	168	398	3256
		1932	19	3026	164	163	355	3612
	綾歌郡陶村	1298	13	1055	123	117	256	2036
		1548	12	1476	170	195	384	2799
	綾歌郡栗熊村馬指	818	16	1069	60	84	194	1579
		1382	54	1575	73	116	228	2165
	仲多度郡琴平町川 東	2679	27	2610	267	114	283	4367
		3723	2	2612	190	131	295	4346
縣道多度 津九龜線	丸龜市地方内間	2287	3	2371	237	140	284	3709
		1929	2	2050	222	127	264	3322
縣道多度 津琴平線	仲多度郡多度津町	2530	3	1484	203	213	377	3061
	大道	3077	3	1934	185	197	385	3659
	仲多度郡多度津町 櫻川	743	3	1057	155	103	221	1990
		718	5	1270	179	86	210	2166
縣道高松 脇町線	香川郡佛生山町	151	3	643	65	56	137	875
		300	7	929	93	57	137	1257
	香川郡川東村	939	12	967	180	113	283	2305
		865	8	1040	84	63	151	1560
	香川郡鹽江村岩部	694	29	858	271	110	289	2709
		796	29	459	115	71	186	1633
縣道高松 長尾線	高松市鹽屋町	2162	9	2866	235	175	431	4281
		2019	4	2850	592	166	547	6534
	高松市鹽上町	4122	127	4652	623	200	553	8541
		3192	0	3243	334	83	292	5222
	木田郡川添村元山	441	3	2038	200	141	366	2652
		491	9	1969	160	124	315	2375
	木田郡平井町池戸	779	8	2301	139	168	377	2545
		707	4	2240	74	236	269	2116
縣道長尾 三本松線	大川郡長尾町長尾 西	1914	6	2286	74	201	375	2668
		1396	3	2150	60	176	316	2197
	大川郡松尾村田面	1480	2	1011	39	94	182	1555
		2100	1	1159	36	87	164	1883
縣道琴平 豐濱線	三豊郡財田大野村 長瀬	980	39	1214	184	137	312	2639
		1771	28	1421	192	182	419	3388
縣道観音 寺池田線	三豊郡一ノ若村江 藤	447	1	575	85	47	116	1099
		498	1	692	47	74	132	980
縣道豐濱 観音寺線	三豊郡観音寺町観 音寺踏切	1989	0	4127	371	96	310	5190
		2933	10	5221	372	157	394	6232
縣道志度 脇町線	大川郡志度町志度	768	1	335	54	33	69	911
		1300	1	982	99	80	163	1809
	大川郡多和村	932	2	302	23	63	109	859
		966	3	327	16	38	72	801
縣道長尾 坂出線	木田郡川島町	1721	8	1759	133	80	201	2593
		1603	9	2115	106	67	167	2469
縣道坂出 港線	綾歌郡坂出町	5767	305	3371	1063	404	1161	13215
		6152	57	3728	745	172	569	9962

路 線 名 (及區間)	觀 測 個 所	歩行者	牛馬	自轉車 自動自 轉車	半馬車 荷 車 人力車	自動車 貨物自 動車	換算 重量	占用値
縣道坂出 貞光線	綾歌郡坂出町富士見	3991	0	3070	620	110	412	7381
		4309	15	3709	657	171	590	8348
	綾歌郡岡田村天神	1145	18	846	68	52	119	1538
		1173	2	978	35	32	77	1281
	綾歌郡美合村尾井平	397	64	174	28	24	51	702
		323	15	251	20	25	49	477
縣道多度 津詫間線	仲多度大見村津島神社西踏切	105	1	358	8	33	47	287
		101	0	333	31	28	53	437
縣道善通 寺莊内線	三豊郡詫間村松崎	2144	4	1669	164	105	214	2910
		2290	4	2145	245	178	382	3899
縣道仁尾 觀音寺線	三豊郡仁尾町仁尾	3430	1	1966	170	186	329	3906
		4387	2	2980	656	354	795	8404
縣道琴平 豐濱線	三豊郡大野原村大野原・辻	1579	18	1130	197	93	221	2751
		2499	17	1613	107	55	126	2707
縣道觀音 寺池田線	三豊郡財田村財田上・雉子尾	807	4	571	119	67	168	1561
		784	5	686	70	51	135	1389
縣道高松 土庄線	小豆郡土庄町吉ヶ浦	2417	1	1441	107	153	270	2686
		2609	27	1680	140	175	306	3219
縣道土庄 坂手線	小豆郡池田村池田西谷	1061	7	644	61	93	174	1324
		1302	8	812	93	88	177	1709
	小豆郡草壁町下村	3229	3	2556	262	101	292	4609
		2703	3	2382	119	119	249	3272
縣道草壁 神懸線	小豆筋草壁町西條	2722	14	1092	238	28	143	3495
		2150	14	1126	268	79	183	3357

占用値は道路幅員決定に資する係數であつて、之を求める指數も第二表として別に表示添付する。

扱てこの交通量の考現地理學の意味はその地點並びに附近に於ける人口密度、産業狀態と相關連するもので、換言すればある地域に於ける住民各個人の平均富有度と貨幣流通度を示すもので之を繁榮度と稱する。之が相對値を繁榮値又は繁榮度係數と云ひ、之に關する研究は未だ完成に遠いけれどもこの繁榮値は交通量よりして先刻述べたる占用値の如き相對値を之と同様の方法によつて求めることが出来る。占用値はこの意味に於て不十分乍らも繁榮値決定の參考となるべく、依つて添へ記したるものである。尙その地域が地方中心、農村、交通半專用路地域と異なるにつれ又異なつた係數を與ふべきものなることを附言して置く。

本項に於ては單に交通量の研究方針の一

第二表  
係數表  
換算及占

換算及占		係數	換算及占
(内務省規定)		換算及占	換算及占
者馬車電車	空盈	0.01	0.5
行力轉	空盈	0.01	3.5
合馬	二輪	0.13	1.4
歩牛人自荷同乘牛同同自自動	四輪	0.27	0.4
電車	空盈	0.27	6
車他	空盈	0.33	6
	空盈	0.67	4
	空盈	0.67	7
	空盈	0.67	7
	空盈	0.67	8
	空盈	0.67	8
	空盈	1.00	0.3
	空盈	1.67	1
	空盈	1.13	1.4
	空盈	2.33	2
	空盈	—	2
	空盈	—	5
	空盈	—	0

つをのべ考現地理學の一進路を示すのみに止めて詳細なる研究は後日にゆづる。尙未完成の研究を厚顔にも指針のみを示し表迄をへて掲げたのは他に又何等かの研究の參考ともなるものが有ればとの筆者の意に出でたるものである。

### 三 各時刻に於ける歩行交通人員量とその各種型式

ある時期午前六時より午後八時迄の各一時間毎に於ける歩行交通人員量を調査し之を横に時

刻、縦に人員數をとつて折れ線のダイヤグラムに表したるものを交通測定量曲線と稱し、次にこの曲線の各折れ線の中點を求めて之を結び更にその線の各中點を求めると、大體その時刻附近に於ける交通量の平均状態を示す可成滑かな曲線が得られる。後の曲線を交通平均量曲線と稱する。

各地に於けるこの二種の曲線多數を求め之を綿密に分類統括すると三種の型と各型に共通なる五種の式都合十五箇の型式が得られた。則ち交通測定量曲線に於ける最大値(L)並びに交通平均曲線の最大最小兩値の差(D)を標準とし且つ各地の性質を吟味して次の三型に分類するを得た。特に附言するが前記二曲線の最大値は互に異なるものであることに注意を要する。その三型は(第一圖參照)

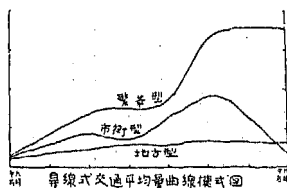
A 繁華型、最大値(L)は約五〇〇人以上、最大最小兩値の差(D)は約二〇〇人以上のもの。  
B 郊外型、最大値(L)は約一〇〇人以上、最大最小兩値の差(D)は約一〇〇人以上のもの。  
C 閑静型、最大値(L)は約五十人以上、最大最小兩値の差(D)は約五十人以上のもの。

B市街型、最大値(L)は約五〇〇人以下二〇〇人以上最大最小兩値の差(D)は約二〇〇人以下八〇人以上のもの。

C地方型、最大値(L)は約二〇〇人以下最大最小兩値の差(D)は約八〇人以下。

Aは中都市以上に於ては中央部主要繁華街及び小都市の極めて中心の一小部分に相當し所謂目貫通りや之に

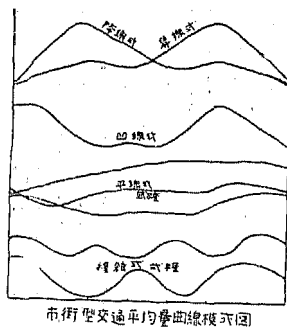
第一圖



亞ぐもの歡樂街に當るもので、Bは中都市以上では外廓部や繁華部の裏町小都市の中央主要部に相當し商業も可成に行はれ居る部分に當り、Cは郊外や農漁山村等に當る。本分類は要するに所謂賑かさ換言すれば繁華度より分つたものである。

次に交通平均量曲線の狀況傾向よりして又五式に分ら得られる。(第二圖參照)

第二圖



1昇線式、夕刻に最大値を有し晝に一箇の極大値を有するも朝には極大値なし。最大値と極大値の間に可成の差がある。

2降線式、昇線式と正反對になるもの。

3凹線式、朝夕に極大値を有する。最大値の位置は朝夕

色々であるが兩極大値の差は著しからぬ。4平線式、著しい極大極小の値を認められぬ。従つて曲線は大なる凹凸なくDの値も又小さい。

5複雑式、極大値三個以上を有するもの。

1乃至5各個の意味は特殊性に基き複雑なもので一概には言ひ難いが、例へば1は歡樂街とその近接部に多く3は通行半專用路地に多い式である。尙凹線式に正反對なるもの(凸線式)も考



香川縣下各地に於ける各時刻間毎の歩行交通人員量調べ

香川縣主木澤調

考現地理學の三四の研究

觀測ヶ所	仲多摩郡 三野郷 馬指	仲多摩郡 三野郷 上吉田	仲多摩郡 三野郷 町川西	三野郷 丹生村 寺等路坊	大川郡 丹生村 寺等路坊	大川郡 幸禮村 寺等路坊	木田郡 幸禮村 元山	木田郡 幸禮村 元山	香川郡 東川	綾歌郡 中村	綾歌郡 陶村	綾歌郡 熊手	仲多摩郡 十郷上	三野郷 頭空	三野郷 空田村
午前 6—7	46	5	142	111	70	44	55	35	23	75	74	48	13	57	29
7—8	92	13	134	241	70	66	166	60	121	89	153	114	73	144	138
8—9	54	12	403	147	28	149	41	22	41	75	104	78	17	42	37
9—10	49	10	540	220	28	18	94	25	32	74	146	98	13	31	30
10—11	44	10	514	191	15	25	59	37	35	67	111	76	13	29	25
11—12	40	4	378	157	11	24	71	35	50	64	109	149	9	56	46
午後 12—1	36	10	349	223	33	155	84	50	88	55	122	84	14	48	52
1—2	32	5	312	210	31	37	45	43	54	64	122	77	15	50	37
2—3	53	9	448	233	37	71	47	33	88	410	114	138	27	61	64
3—4	60	15	314	284	58	65	101	47	47	82	107	115	35	45	80
4—5	54	7	401	288	46	87	113	32	48	78	98	111	47	45	91
5—6	104	12	220	273	24	81	88	31	82	87	107	116	27	45	67
6—7	31	7	237	230	17	80	76	26	92	76	101	110	11	20	58
7—8	23	5	212	126	13	51	52	16	65	83	80	98	10	15	41
型式	C <sub>3</sub>	C <sup>+</sup>	A <sub>1</sub>	B <sub>1</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>5</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>4</sub>	C <sub>5</sub>	C <sub>4</sub>	C <sub>4</sub>	C <sub>1</sub>	C <sub>3</sub>	C <sub>2</sub>	C <sub>3</sub>

へ得られる様であるが筆者今迄の研究に於ては一度も見られなかつた。然し本研究について大都市の繁華なる都市のデータ少く、或は凸線式

の存在も不可能とは斷じ得ぬことを附言する。

第一圖は昇線式を例にとつて三型を示し、第二圖は市街型を例として五式を示したる模式圖

である。之によつて他の場合各種をほぼ同様なものと思像して可い。

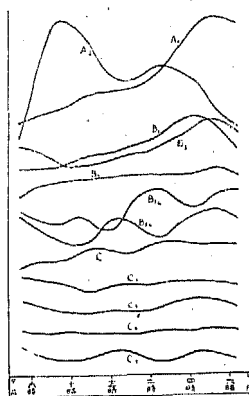
#### 四 香川縣下三十ヶ所に於ける歩行

交通人員量及びその交通平均量

曲線の型式について

香川縣下三十ヶ所に於ける歩行交通人員量は第三表に示したるが如くである。之ら三十ヶ所の交通平均量曲線の型式は前記のAB乃至C、1乃至5の組合せ十五式中十一式に該當するものを得たが、 $A_3A_4A_5B_2$ の四式は全く得られなかつた。之は縣下に中都市以上の都市少き爲であることは明瞭である。之らについて以下各一的

第三圖 香川縣下三十ヶ所に於ける歩行交通平均量曲線の型式



説明は省略し第三表の調査表中に各型式を記入し、又各式毎の

平均、統括圖を第三圖として示す。但し複雑式は統括困難なるものであるから本式に包含さる各例を個別的に一部示して置く。

#### 五 高松市夜の研究の一部

他地に於てこの種の研究なき爲本項に於て比較研究をすることが出来ぬ事は遺憾であるが、主觀的立場に倚つて作成したる「高松市夜の地圖」第四圖を中心とし之に簡單な説明を加へる。本圖は次項畫の圖も同様必要部のみに止めてあるが高松市の中央部全體を示し市街地の六七割を圖中に包含して居る。尙他方高松市全圖を参照せられ度い。又圖中の道路は主要なのみを記入し畫の圖に於ては特に重要と思推する線のみに簡略した。

先づ第一に市内に在る活動常設館數五その他萬歲芝居レジャー専門のもの三合計八座がある。之を吳市(人口二十一萬餘)の計七と比較すると不可解な對照である。事實は高松市はやや多く吳市が甚だ少いのであるがよく考へると吳市の

特殊な状態を何か暗示するものがある。

次にカフェー及び同類のものであるがその數四八で中四は休業と一時休であつた。他に喫茶店一

一(ノ一、アルコールは中

三)。縣保安課の約半年程

前の調査に依ればカフェー

一四六でその女給數二〇

八、酒場八女給數六、喫

茶店五こゝでは十三歳以

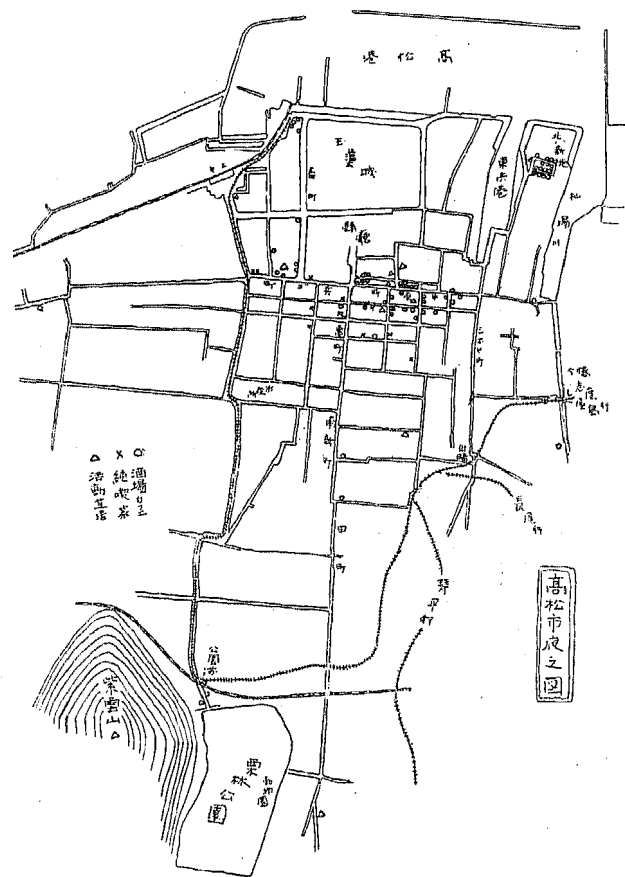
上のものは働けない規定

の爲女給なし。

保安課の數字と筆者の

調査と異なる理由は約半年の時日の懸隔(筆者の調査は昭和九年二月下旬)と認定の相違で、偶然乍ら總計數は一致して居る。

この外に洋食堂(デパートを加へて)四、支那



料理店三がある。

尙北の新天地にカフェー類似のもの十六ありこゝは遊廓で兼業してゐるものであつて、之は前掲の數字からは除外してある。この部分の調査

圖 五 第

考現地理學の三四の研究



の爲縣保安課某氏を煩はしたがこゝに謝意を表する。

以上に依つて高松市の夜の狀態を推察しえられることと思ふが、猶茲に數軒のカフェーは舞臺を設けてあり(今は禁止された)踊つてゐたさうで、且つカフェーの大多數がカバレーと稱してゐることは注意を要する。人口八萬三四千の高松市に對してこのカフェーの總數はやゝ多すぎる——、又舞臺を備へたカバレーのあること及びカフェーの分布が餘りにも中心部に偏在する以上の事實は、高松市が商業都市として榮えても居るが一面これ以上に觀光都市として榮えてゐる事を物語る。

## 六 高松市畫の研究の一部

第五圖「高松市畫之地圖」は前項の研究と比較せんが爲に作成したもので、之にも簡單な説明を加へやう。

先づ學校では専門學校一、男子中等學校五、女子中等學校四、特殊學校三、小學校一一(圖

外に一枝)、幼稚園六(?)がある。次に一等郵便局一、三等郵便局七、銀行二〇、中市内に本店を有するもの二、新聞社及支局一一、中で日刊は七。市中に本社を有する日刊新聞は二つある。他は圖に示してある如くである。

以上二種の地圖で商業街、住宅街、學校地區歡樂街、官衙地區等は一目瞭然と判る。之以上は繁多となる爲云ふを欲せぬ、又取上げて述べる程の事も少い故本項は之迄で止める。

## 七 獲麟に際して

以上五項目に亘り考現地理學の一部の研究を示して以てその説明に代へた。之等を要するに以上によつて明かなる如く現在迄の地理が表面より觀察するに反し、考現地理學は裏面的研究で以て進むものなることを附言しておく。叙上によつて筆者は考現地理學の語の提起をなし且つ大方諸先輩の御叱評を仰ぎ度いと希望する。

尙先に記せる方々以外に本研究に何かと御助力を賜つた數氏があり末筆乍ら深謝する次第である。(昭和九年三月十六日了)